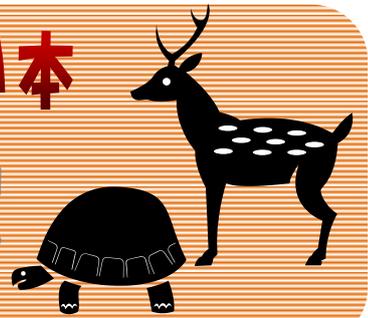


# 読書の窓 10月に読みたい本

## 動物に親しめる本



### 『ウソ・ホント？動物ことわざ辞典』

佐草一優／著  
ビジネス社

古来より、日本人は八百万信仰のもと、動物を友とみなし、畏怖の念や愛情、生態に関する知識を民話、格言やことわざなどで伝えてきました。その動物にまつわることわざを、野生動物の生態観察を続けている獣医師が、最新の動物学の知識でもって検証した本です。

### 『動物なぜなにものがたり』

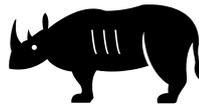
ヘニング・ビースナー／ヴァリ・ミュラー著  
河出書房新社

「伝書バトは郵便局に就職できますか？」「動物はバカンスに出ますか？」ドイツ・ミュンヘンの動物園園長が、ラジオ放送で質問に答えたコラムにオールカラーの挿絵が入った一冊です。ウイットに富んだ回答を読み進めるうちに、動物の世界の一端が垣間見えてきます。

### 『靴を履いたサイ』

ルーシー・スペルマン、テッド・マシマ／編  
丸善

足の蹄がすり減り歩行困難になったサイに、獣医たちは蹄の代わりにする靴を履かせようと試みる…。その他に、特注ギブスを着けたキリン、拒食症のウツボなど世界中の獣医師たちの奮闘記を28話収録。奇抜な治療法に驚かされ、動物と人間の絆に心打たれる一冊です。



### 『どこでもへっちゃんら スーパーアニマル大全集』

ニコラ・デイビス／著 フレーベル館  
凍てつく南極、灼熱の砂漠、火山、深海…。過酷な環境で生きる生物の体の仕組みを、可愛いイラストと共に分かりやすく解説。人間の非力さを知り、動物たちへの畏敬の念が湧いてきます。地球外生命体や、寿命には抗えない命についても考えさせられます。



今月の特色コーナーでは、あたたかく、優しく、そしてユーモア溢れる眼差しで語った「いきものたち」の詩を紹介いたします。ぜひ、声に出して読んでみて下さい。



- ・『いきもののうた』 小海永二／編 ポプラ社
- ・『ことり』 まど・みちお／詩 小峰書店
- ・『てつがくのライオン』 工藤直子／著 理論社
- ・『ひらがなどうぶつえん』 関根榮一／詩 小峰書店
- ・『ふくろうめがね』 くどうなおこ／詩 童話社
- ・『アメリカ子供詩集』 ドナルド・ホール／編 国文社

